

## 平成 15 年度大学祭 (第 33 回成美祭) を終えて

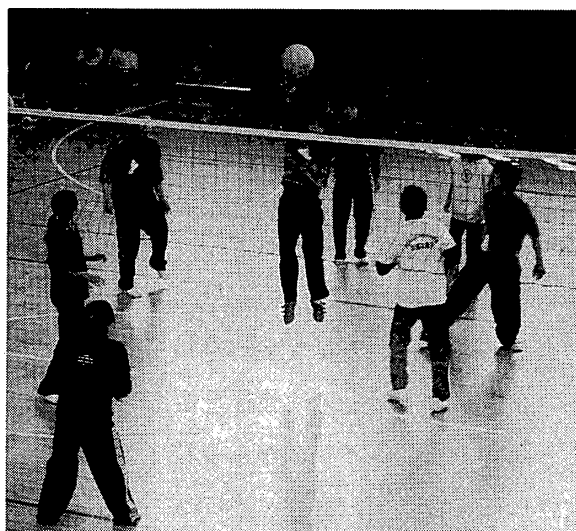
学 生 課

檀 明

今年度の大学祭も無事に終わることが出来ましたが、本学の学生にとって「大学祭」とは、どのようなモノであって、どのような取り組み方、どのような付き合い方、どのようなこなし方をすれば良いのか……という側面から今年度の大学祭を振り返って見ることにする。

どのようなモノで有るのか……これは企画の段階であるが、学友会役員からは一様に「今までに無いモノ」と言う。では何かと聞くと、「タレントを呼びたい」となり、学園祭には何か目玉が必要でしょと頑張るのであるが、やがて予算面で諦めるパターンに入り、学生全員に学園祭予算が還元できる様な企画へ移行していく事となる。このことは単科短大となって学生数減少と予算編成上いくら説明しても毎年提起されることであり、学生課の教職員はここで疲れるパターンとなり、また今年も言ってるわ、まあ企画だけ出さそうかどっちみち無理やけどと言いながら、最終的には学友会も学生課もパサージュ（通過儀礼）として受け入れざるをえなくなるのである。

つまり、企画上、対京阪神の大学祭並をイメージするが、現実の京都短大規模と予算を理解すれば、タレントを断念する代替案としては特別に無いが、と言うところで現実的な実を取る方法＝参加学生への還元を最大限に考慮すること＝価値有る賞品に巡り合えるチャンスを作ること＝結果として過去最大規模のビンゴゲームになった様に思う。日程としては、一日目（10月18日）バレーボール大会 二日目（10月19日）模擬店、一発芸大会、ビンゴゲームで実



受理：2004 年 1 月 15 日（成美学会）

施することになった。

次に、内容的に各ゼミ・班・クラブでの取り組み方、こなし方が学園祭の成否を左右する重要な問題であるが、各担当教職員の受け止め方、対処法には限度があり、そこから学生の熱意と意欲が、学園祭という一種独特の雰囲気の中でまとまり、京短生としての連帯感で“良かったな、面白かったな”で終わるところが本来の学園祭が意味するところの“祭り”であり“遊び”として誰しも納得しえることだと思うのだが、理屈に合わないゲームなら、初めから参加しないことが自分スタイルの鉄則だったのに、ゼミ・班で無理やり役員や担当を強いられ、自分以外のところで決定され、自覚が無いまま“遊びきれない”で終わる不満、笑って許せない事情があったと思う。かつては学園祭の名の下に“笑って許された”失敗談も、今は確かに、“許されない”“笑えない”状況に学生も教職員も無理に作為的に推し進めてきた訳ではないが、出来るだけ学生主体の意見を取り入れることが返って学生自身が追い込まれて行く様に取りれる学園祭形式そのものを見直す転換期にあることだけは言える。

計画に対する実行と運営は、学友会本部役員と実行委員が数ヶ月の会議の結果として具体的に実施計画要綱として各ゼミ・班・クラブに伝え、許される範囲内で自由解釈して計画実施していくが、統括していく組織である本部実行委員が比較的に柔軟な対応で“楽しんで欲しい”を優先にした事が裏目に出た面もあった。バレーボール大会でのルール不徹底からの不満、模擬店の出店規程問題や補助金規程など、個人の言動と解釈が、その場だけで解決できてあまり尾を引かないのがこれまでの執行部と一般学生間だったが、これほどスッキリしないくらい許せない問題になるなんてこれまでの学園祭ではなかったことである。

一発芸大会も4年目を向え、内容的にはハイレベルな映像をバックに歌・ダンスの組み合わせ、二人羽織りなど、事前に練習が必要で大きな成果に繋がったもの、笑いや感動を受けた出し物もありました。が、昨年よりも自らが演じないで企画側に回る出し物を提供する側に回る、焼きそば早食い大会、一気飲み大会など景品で参加を煽り他人の演じ方次第で評価されると言った出し物が半分以上あるという事はどうかと思う。

ビンゴゲームに関して、タレント代替償還ゲームとなり、前年度までの景品額を大きく上回り全体予算の5分の1を占め、参加者全員熱中し、大いに盛り上がったのだが、この種のリアルさを喜ぶべきか悲しむべきか、当たる確率は低いながらも誰にでも巡ってくるチャンスを作ることで学園祭メモリーにする。そんな程度とタレントを呼ぶことが同等なのか学生課側には「大学祭」とは“この様なモノ”かなと大いに疑問が残るのである。

末尾に、今年度の学友会本部役員、学園祭実行委員の努力の成果として、手作りパンフレット、2種のポスターを作成したこと、テーマ「enjoy play」のポリシーを持って、学園祭で出るごみ問題を考える4年前から継続中の裏テーマ「エコエコプロジェクト」を遂行できたことは大きな成果として賞賛し、次回へも新たな基点となることを期待したい。